○イタビカヅラの分布に就て（森邦彦） Kunihiko MORI*: On the distribution of *Ficus foveolata* Wall. var. *nipponica* Makino in Japan.

私は昨年 8 月 31 日から 9 月 9 日迄の 10 日間，新潟縣岩船郡の粟島（アヲシマ）に山形農林專門學校生徒堀敬次君の援助を得て植物調査を行ふことが出來た。本調査は文部省科學研究費を以てしたものでここに記して深く感謝の意を表する。粟島に就いての植物學的報告は後日あらためてなすこととする。

粟島は羽越線寒川驛の洋上約 22.5km にある日本海上の一孤島である。同島の地形は略南北に延びた長さ約 6.5km 巾約 1.8km 面積約 9.5 平方 km 周圍約 18km で，島の中央部を南北に走る低山脈があり，中央より北に大坂山（235m）南に小柴山（265m）の二山がある。この二山が島の中での第一，第二位である。東側海岸は現在港として使用されている內浦に稍々濶けた平地がある丈で他部には余り平地はなく脊梁山脈の裾が海岸近く迄延びてきており汀線迄僅か 10～15m が礫濱或は岩礫濱となつている所が多い。砂濱は內浦海岸とそれより北に二，三個所に小面積のものがあつた。西海岸は殆んど斷崖絕壁で海岸迄降るのは容易でない所が多い。北海岸，南海岸も略同樣である。氣溫は對馬海流の北上により可成暖たかく昭和 24 年 1～3 月間の平均最高溫度は 18° 又同最低溫度は 4°である。更に昭和 25 年 1～3月間の平均最高溫度は 17° 又同最低溫度は 3.5° であつた。降水量は昭和 24 年 1～12 月間に 1550mm であつつて非常に寡少であり，多期間の主風方向は南西で可成猛烈なものである。本島に二部落がある。一は東海岸の稍々中央部にある內浦で，之處には村役場，郵便局，小，中學校等があり，只一軒旅館もあり，戶數 100 戶。今一つは西海岸の南端寄りで釜谷と言ひ戶數 30 戶，小學校分校がある丈の寒村である。人口總數 880 人，男子は漁業に專念し，婦女子は農耕に從事す。滯島中ジェーン颱風に見舞はれたがその被害頗る甚大で春以來熱心に手入されてきた農作物が收穫前に蹂躙されて仕舞つたことは不可抗力とは言へ全く同情の涙禁じ得なかつた次第である。尙島の主要產業に竹林經營がある。植栽面積約 70 町步，製品は新潟市，酒田市，鶴岡市其の他へ販賣されている。

さて話を表題に戻して 9 月 9 日に內浦村近くの竹林に直徑 1 尺に及ぶマダケがあると聞き，それを探しに出掛けた。目的の竹は發見することが出來なかつたが竹林內で珍らしくもイタビカヅラを採集することが出來た。筆者は 30 年以上も台灣で生活し所謂熱帶の植物に親しんできた關係上この *Ficus* 屬植物を見て非常に懷かしく且嬉しく感じたことであつた。歸校後 東京大學理學部植物學教室，京都大學理學部植物學教室，九州大學農學部林學教室及東京科學博物館に夫々御願ひして其の產地を標本によつて調べて頂いた。即ち（東京大學）沖繩島，奄美大島， 小宿． 大隅，高隈山．薩摩，伊作村． 日向，飫肥町，八幡神社． 肥後，會田村；八代町． 肥前，多良岳；長崎． 豊前，英彦山． 土佐，龍津村，錦山谷． 周防， 吉敷郡，大內村，字小野． 安藝，嚴島；鄉

原. 淡路，灘淡路，大町. 紀州，鹿瀨峠，同湯淺; 能洲，薙野; 和歌浦; 西牟婁郡，田邊湾，火田島; 上秋津村，奇絕境. 攝津，神戸，布引. 加賀，江沼郡，菅谷. 佐渡，Hagurosan. 上野，北甘樂郡，吉田村，小林. 下野，益子町. 武藏，秩父，妻坂峠相模，鎌倉; 神武寺. 常陸，筑波山. 伊豆，湯ケ島。(京都大學) 伊豆，三宅島，神着村，Idzu (Faurie 15533). Kamitsuge (Faurie 3661). Sado (Faurie 2354); 二見. 越後，能生，白山神社社叢; 中頸城郡，岩殿山; 刈羽郡，椎谷. 越中，黑部の入口，愛本; 親不知，鹿島社，宇波. montagnes de Tsuruga (Faurie 7871). 美濃，山縣郡，北山村，円原. 近江，蒲生郡，西大路村，藏王. 山城，京都市，右京區，松尾; 京都嵐山; 比叡山; 宇治，田原村; 貴船. 大和，吉野. 紀伊，田邊町; 西牟婁郡，畠島. 周防，鴻ノ嶺. 伊豫 喜多郡，大瀨村，池田，牛頭天王; 南宇和郡，御荘村，陰平山; 八幡濱. 肥後，神瀨; 一勝地. 大隅，屋久島，屋久島小杉谷. 濟州島 (Faurie 896). 沖繩源波. 奄美大島，南部. 西表島. 台湾に於ては勿論全島的に本種の分布をみるので産地6箇所を示されてあるが省略する。(九州大學) 朝鮮，全南，高興半島，東萊海岸附近; Isl. Quelpaert. 筑紫，野馬溪 (福岡市に近し); 福岡市外，愛宕山; 福岡縣，三井郡，御井町附近，高良山麓. 台灣產2點あり (省略)。(東京科學博物館) 越中，婦負郡，細入村，蓼谷前山. 相模，横須賀. 伊豆，下田. 遠江，小笠山. 近江，伊吹山. 大津，逢坂山. 伊勢，朝熊山. 紀伊，紀三井寺. 攝津，有馬. 播磨，小野町. 周防，日暮澤 (滑山); 吉敷郡，大内村，小野. 長門，阿武郡，瘡郷東分村，小畑. 肥後，百濟木村. 筑後，八女郡，笠原村. 大隅，屋久島，宮浦. 朝鮮，全南，高興半島，羅老島; 台湾產2點あるも省略する。

結局現在産地として判明している所では佐渡島がイタビカヅラ分布の北限となつている。目下國際上に大きく浮び上つている 38° 線が丁度佐渡島を横斷している。今度この 38° 線を乘り越へて粟島に本種が發見されたことは更に自然分布を北方に移動せしめた譯でこの南方色豊かな *Ficus* 屬である丈に非常に興味がある譯である。粟島は竹の栽培地としての北限であらうと考へられるが，この點に於て何かイタビカヅラの自然分布と關連性がある樣に思はれる。

又更に本種の分布を文献上から吟味してみるならば結城嘉美氏の飛島のフロラ及び山形縣植物誌及同補遺 (1950) 中にも無い。更に秋田營林局發刊の管內國有林植物目錄，青森營林局發刊の宮城縣植物目錄及び岩手縣基準帶植物目錄にも共に無い。要するに現在の資料を以てしては粟島がその分布の北限と決定する譯である。

最後に資料を頂いた佐竹義輔博士，原寬博士，田川基二博士，九州大學農學部林學科植物標本室係の先生及び堀敬次君に厚く御禮を申上げる。(山形大學農學部造林研究室)